

= 祈りの絆 =

連盟の被災地支援に関する情報は、連盟ホームページをご覧ください。http://www.bapren.jp/

APBAid (アジア太平洋/プロテスタント支援機構)

総主事

副主事



Pheiga Gangmei
Kabispou
(カピさん)



Feraz Legita
(レヒタさん)

その愛を運んでくださる主にあり感謝！

◆APBAid 総主事・副主事が来日！
震災当初から大きな祈りと支援を寄せてくださっているAPBAid(アジア太平洋プロテスタント支援機構) 総主事のカピさん(インド)、副主事レヒタさん(フィリピン)が来日くださいました。お二人は、フォーラムや仮設支援だけでなく26日より27日まで仙台・岩手・郡山を視察。強行スケジュールにもかかわらずいつも笑顔で私たちと行動を共にしてください、身を低くして仮設の方々を寄り添ってくださる姿に、その信仰の姿勢を教わりました。

◆「宣教・神学フォーラム」開催
6月28～30日、「東日本大震災と原発事故が問うける宣教・神学フォーラム」が開催され、仙台に全国65教会・伝道所の105名の方々が集いました(初日の公開プログラムには150名余が参加)。詳細はパプテスト誌(8月号)で報告いたします。

遠野ボランティアセンター
ボランティア募集

◆7・8月の募集
日程 ① 7月23日(月)～27日(金)
応募締め切り7月14日(月)まで
② 8月27日～9月1日(土)
応募締め切り8月13日(月)まで

※集合時間は後日お知らせします。
募集人員 15人

7月27日は東北地方連合信徒大会のため期歌短縮となっています。
8月13日～16日はまごころネットがお休みのため、募集はいたしません。また、8月6日～11日、8月20日～25日は大学生が入るため一般の募集はいたしません。
旅費補助対象になるのは、移動日を除き、活動日が2日以上です。初日と最後の日は移動日と考えると最低3泊4日の計画が必要です。

- 祈りの課題
- ① 福島第一原発事故の完全収束のため。
 - ② 夏にむけて、それぞれの仮設支援計画が守られるように。
 - ③ 今も避難しておられる方の健康が支えられますように。



大槌町小籠第四仮設



大槌町小籠第四仮設お茶っこの会



郡山仮設支援

◆仮設住宅内の談話室新設&増設
現在、仮設住宅生活は一つの転機を迎えています。家を建てられる人とそうでない人、家族がいる人とそうでない人。いろいろな形態があり、孤独死、自死、心の病、ストレス性の病。仮設生活の中にある課題が浮き彫りになってきました。遠野センターを通して支援をしている大槌町だけで仮設団地48箇所中、談話室のない団地22箇所。ただでさえ孤立しがちな仮設住宅生活です。談話室のない仮設団地では、交わりをする場所すら作れないのです。そこで、テキサス州連盟の指定献金と皆さんからの募金を合わせて約800万円の予算で小籠第七仮設団地に談話室新築、小籠第四仮設団地の談話室増築をすることになりました。心の通う場、生きる力を得る場になることを願っています。なお、第七仮設住宅に談話室が新築された後は、遠野センターによる支援活動を展開していく予定です。

◆大槌町小籠第四仮設お茶っこの会6月28日
今回のボランティアチームは、南名古屋教会から4名、松山西教会から1名が集められ、遠野センターの2名を合わせて総勢7名の参加で行われました。
今回は午前10時開始の予定でしたが、ボランティアが9時頃に仮設集会所に到着し、準備を進めていると仮設の皆さんは間もなく三三五五集まってきました。いつの間にか集まった仮設の方々の傍らにボランティアの皆さんは自然と散らばり、寄り添って傾聴の時となりました。お茶っこの半ばを過ぎた頃に皆で歌を歌ったのですが2曲目を歌い終わったところ、2人の若いお母さんが、それぞれ生後1カ月と2カ月の赤ちゃんを連れてやってきました。皆が歌そっちのけで小さな赤ちゃんに釘付けになってしまいました。赤ちゃんがいると雰囲気がとても明るくなりました。また来月も来てくれますようにと祈ります。最終的には17名の方が来てくださって、一緒に楽しい時を過ごしました。

東日本大震災被災地支援委員会 原発課題班コラム
原子力発電所事故と放射能について 知っておきたいこと②
可能な限り無用な被ばくを避ける

「放射線を何ミリシーベルト(以下Svとする)以上浴びると健康に良くないのですか」という質問をよく聞きます。自然に浴びる放射線を除いて、原発事故などによって余計に浴びる放射線の限度は法令で定められています。食品に対する暫定規制値が(厚労省省令)示されました。それは「食品のみで年間5ミリSvまで」としています。一方、文科省令では「一年間で合計1ミリSvまで」という線量限度が課せられています。本来これは、空気を吸うことや飲食による内部被ばくも含めて1ミリまでという意味ですので、食品に対する暫定規制値と矛盾します。

では、文科省令に従って考えてみましょう。年間1ミリとはおおよそ1時間当たり0.11マイクロSvに当たります。福島の事故以前の放射線量を自然に浴びる放射線量とし、仮にそれを1時間0.06マイクロとしましょう。もし、空間線量を測って0.17マイクロ以上を示したら(0.17=0.06+0.11)文科省令に反する事態です。しかも内部被ばく抜きで。

いずれにせよ、年間線量限度の数値はこれ以下ならば病気になるという意味の「安全量」ではなく、健康に悪いかもわからないけれどここまでは我慢しようという意味の「我慢量」です。アレルギーと同じく敏感な人は微量でも健康を害することがありうるからです。「可能な限り無用な被ばくを避ける」ことをわたしたちはお勧めします。(原発課題班 担当・濱野)



被災地支援活動ポスター 各教会でダウンロードし、ぜひお使いください。

東日本大震災被災地支援募金にご協力ください
すべての支援活動は、募金によって支えられています。
2012年度募金目標総額 2000万円
実績 2,818,176円(4月～6月末)
今年度活動予算6100万円
(昨年度繰越と今年度募金併せて予算を組んでいます。)

お祈りとご協力に心から感謝申し上げます。
送金先:郵便振替00140-9-180881宗教法人日本プロテスタント連盟総部
※「大震災被災地支援募金」と明記してください。
※募金は極力、教会単位でご送金ください。海外からの募金は別口座になります。総務部までお問い合わせください。